

高島市の皆様へ

北川わたる 39歳 まちづくりの 政策提案集

あなたと創る高島の未来

北川わたるさんは
以下のような政策を発表されました

01

私たちの声が政治に届く

02

民間の力でまちを動かす

03

高島の皆様と共に未来へ



目次

高島の未来を一步先へ	03	声-先輩世代	18
自己紹介	04	政策-先輩世代	19
理念と行動指針	05	声-現役世代	20
高島と私	06	政策-現役世代	21
NPO法人「TSC」を19年経営してきました	07	声-未来世代	22
政治家と行政経験	08	政策-未来世代	23
高島市の可能性	09	イチゴ問題について	24
高島市の危機感	10	ごみ処理施設について	25
データ(人口)	11	開かれた市政	26
データ(所得)	12	リーダーとして	27
データ(財政)	13	民間視点による市政運営で、稼げるまちへ	28
交通インフラの発展① 湖西線	14	その①	29
交通インフラの発展② 道路	15	その②	30
交通インフラの発展③ 新幹線	16	その③	31
対話集会を行ってきました	17		



高島の未来を一步先へ

皆さんに、想像して頂きたいことがあります。それは高島の人口が6万人になった姿です。今回、様々な対話集会を重ねてきて一番多かった声は、交通インフラ、特に湖西線に関するものでした。これを解決することが政治の最大の役割だと考えています。

今、何を一番優先するか聞かれたら、明確に「交通インフラの改善」と答えます。これは対話を通して高島市の最大の課題だと感じました。それ以外の課題は、この課題を解決した先にあります。なぜなら、交通インフラさえ整備できれば他の問題は自然と解決していくことが多いと感じています。

具体的に申しますと、現在は湖西線が風で年間約50回ほど止まりますが、もしこれが5回に減ったらどうでしょう。もちろん、台風などの災害時はやむを得ませんが、年間で5回しか止まらない状況を想像してみてください。そして、1時間に最低2本以上の電車が走り、サンダーバードは1時間に1本は通り、将来的には新幹線すら湖西線を走るかもしれません。国道は片側2車線になり、70kmで走行可能になります。敦賀まではトンネルで繋がり、敦賀から京都・大阪までバイパス一本で行けるようになります。

もし、そこまで交通インフラが改善されたら、今までのような人口減少は続くでしょうか？高島は京都まで1時間弱で行けるといふ地の利があり、地価もそれほど高くありません。琵琶湖と山々に囲まれた自然豊かな環境を維持しつつ、活気があった時代のように少しずつ人口が増えていく街に私たちは住めるようになるかもしれません。

これより先の高島の未来を思い描くとき、人口減少を受け入れ、削減を続けながら小さくなり続ける道を選ぶのか、勇気を持った未来投資でワクワクする未来を切り拓くのか。どう舵を切るかは、私たちが決めることができるのです。

北川 渉

高島の
未来の
一步先へ

自己
紹介

高島市の
可能性

高島市の
危機感

交通
インフラの
発展

対話会を
行つて
きました

高島市の
課題

開かれた
市政

稼げる
まちへ

自己紹介

高島の
未来の
一歩先へ

自己紹介

高島の
可能性

高島の
危機感

交通
インフラの
発展

対話を
行ってきた

高島の
課題

開かれた
市政

稼げる
まちへ



北川 渉（きたがわ わたる）

生年月日

昭和60年6月7日生まれ

家族構成

妻、長男、長女、次男、三男、四男

父 高島市役所40年勤務（旧今津町役場～）

母 今津町役場勤務→主婦→茶道・華道の先生

趣味・特技

スノーボード、読書、映画鑑賞、
教育、まちづくり

経歴

1985年

滋賀県高島市（旧今津町上弘部）に生まれる
愛隣保育園、高島市立今津東小学校、
高島市立今津中学校、滋賀県立高島高等学校、
びわこ成蹊スポーツ大学

小学校4年生から野球を始め、小中高大学でキャプテンを務める

2003年

肘の怪我により、ピッチャーとしてプロ野球選手を目指す夢を断念
「たくさんの人に影響を与えられる大人になりたい」との思いから、
第二の夢として、起業家になることを決める

2006年

大学在学中に仲間を集め、スポーツ塾「TAKASHIMA SPORT CLUB」を創業

2008年

卒業と同時に、“社会派起業家”としての思いからNPO法人TSCとして法人化
事業を通じて社会課題を解決することにより、持続可能な仕組みづくりを目指す

2024年

19種目のプログラムを運営し、約400名の生徒を抱えるスポーツ
教室とフリースクールを経営
政治団体「高島の未来」の共同設立発起人

「高島の未来を一步先へ」

私たちの声が政治に届く
民間の力でまちを動かす
高島の皆様と共に未来へ



理念と行動指針

高島の
未来の
一步先へ

自己紹介

高島の
可能性

高島の
危機感

交通
インフラの
発展

対話を
行つて
きました

高島の
課題

開かれた
市政

稼げる
まちへ

高島と私

私は高島市が大好きです。高島市に生まれ、この地で事業を営んできました。

事業がある程度軌道に乗った頃、外の世界も見てみたいという想いが強まり、東京や兵庫に拠点を持ち、2拠点生活を始めました。その後、結婚し、子どもが生まれた頃は兵庫県明石市に住んでいましたが、2人目の子どもが誕生したタイミングで「将来自分がどこに住むのか」を真剣に考えました。日本全国、さらには世界を視野に入れて検討した結果、生まれ育った高島の地で子どもを育てたいという思いに至り、高島に完全に戻る決断をしました。

私は、自分が選んだ道を「正解」にしたい。そのために、自分が高島市のために何ができるのかを深く考えるようになりました。単に事業を拡大するだけでなく、「高島にとって必要な事業とは何か」という視点を持って意思決定を行ってきました。

現在、高島市では人口減少によってスポーツ少年団や部活動の選択肢が減り、子どもたちは自分に合った種目を選べないという現象が起きています。先細りしていく子ども達の学びの機会。そんな未来を少しでも変えるために、高島の子ども達が多くの種目の中から自由に選択したり掛け持ちができるスポーツ環境を整えたいと考え、運営していたスポーツクラブを19種目まで増やしました。

ある時、生徒の中に一見元気そうに見えるのに、実は学校に通っていない子がいることに気づきました。その子に普段何をしているのか尋ねると、「家でゲームをしている」と答えました。学校に行かない選択をすることと、引きこもりが同義になってしまう現状に大きな課題を感じたことをきっかけに、学校以外でも教育を受けられる選択肢を作りたいと自然体験型のフリースクールを開校しました。高島の自然を生かした自然体験型フリースクールとして、いつ学校に行きたくないと感じてでも受け入れができる環境を整えました。このように私はこれまで経営者という立場において事業を通じて社会課題を解決すること、そして主体者という立場において自分が決めた選択を正解にしたい。その思いから高島をより良い街にするために活動をしてきました。



高島の
未来の
一歩先へ

自己紹介

高島市の
可能性

高島市の
危機感

交通
インフラの
発展

対話を
行ってきた

高島市の
課題

開かれた
市政

稼げる
まちへ

NPO法人「TSC」を 19年経営してきました

TSCは野球とバレーボールの2種目で始まりました。夢を持つ地域子ども達にその夢を叶える環境を与えてあげたい。その思いで始まったクラブは、地域の方々の支えや保護者の皆様のご理解・子ども達の熱い思いのおかげで少しずつ成長を遂げてきました。

現在では3歳から80代の方まで幅広い世代の皆様にスポーツプログラムをお届けしています。幼児期には体操教室やトランポリン教室など、体を自由に操れるようになるためのプログラムが人気です。小中学生には野球やサッカー、バレーボールやバスケットボール、ハンドボールやバドミントンなど専門種目をより高いレベルで学べるアカデミーのプログラムが中心です。高齢者の方々にはポールをもって歩くノルディックウォーキングやフィットネスなど、定期的な運動機会を提供し健康寿命を伸ばすお手伝いをしています。

TSCの仕事では月会費を受け取る際にありがとうという言葉と一緒にいただける機会が多く、もちろん私たちもありがとうございますという言葉返します。困りごとを解決し、そのお礼を対価としていただくことがビジネスの本質だと捉え、お互いに感謝し合える関係づくりを大切に経営してきました。ここで培ってきた【相手の立場に立って物事を考え、お互いwin-winの関係を築く】という行動原理は、行政運営においても大きく役立つと考えています。

これからは行政も経営する時代。

自ら財源を生み出し相手の立場に立って交渉し、未来に投資をする新しい政治行政の転換が高島の未来を一步先へ進めることにつながると、私は確信しております。



高島市の
未来の
一步先へ

自己紹介

高島市の
可能性

高島市の
危機感

交通
インフラの
発展

対話会を
行つて
きました

高島市の
課題

開かれた
市政

稼げる
まちへ

政治家と行政経験

私は行政の現場での経験を持ち合わせていません。しかし、それを弱点と捉えていません。

行政運営において重要なのは、経験だけでなく、市民の声をしっかりと受け止め、それを実現するための「行動力」と「決断力」だと思います。

行政の現場には、専門的な知識と豊富な経験を持つ職員が数多く在籍しており、彼ら彼女らの能力を最大限に引き出せる環境づくりが必要です。そのためには、適切な人事配置と効果的な組織体制の構築が重要なポイントとなります。

また、市役所を単なる「行政手続きの場」とするのではなく、市民と共に歩む「地域の中心」として再定義することが求められます。市民一人ひとりが「自分の声が行政に反映されている」と実感できる仕組みを整え、職員全体で地域と向き合い、協力して市政を推進する姿勢が大切です。

高島市のリーダー像として求められるのは、単に行政の細部に精通することだけではありません。地域の未来を見据えた明確なビジョンを掲げ、その実現に向けて行政組織を効果的にマネジメントし、チームとして力を発揮できる能力が重要です。このようなリーダーシップが発揮されることで、地域社会のさらなる発展が期待されるのではないのでしょうか。



写真はイメージです

高島市の可能性

高島市の人口が減るという未来は本当に決まっているのでしょうか。私はそうは思いません。

京阪神の都市部から1時間前後でアクセスできる地理的な優位性に加えて琵琶湖や山や広大な農地など、人が生きていく上でこの上なく豊かな環境がある町に、住みたい人が減っていくというのは私には信じられません。残念なことに、データでは滋賀県における人口の減少率は1位です。その理由は一体何なのか。その大きな理由の一つが交通インフラの脆弱さだと言えます。

実際に湖西線が開通した50年前には、いたるところで宅地開発がされて人口は年々増えていました。

しかし近年、主に風の影響により湖西線は頻繁に遅延や運休を繰り返すようになりました。道路は観光需要の増加により日常的に渋滞し、事故が起されれば大きな遅れが発生するという状況が常態化しています。なかには、目指していた企業への就職が決まったにも関わらず、湖西線沿線に住んでいるがために入社条件として会社の近くへ引越しを余儀なくされた市民の方からのお話をうかがうこともあります。このように、将来を担う若者たちにとっても、大きな障壁となっているのです。

人口増加率全国1位はつくば市（茨城県）、2位は流山市（千葉県）となっていますが、両市の特徴は東京都心から約1時間の通勤圏内ということです。つくば市は研究開発都市、流山市は子育て応援都市というそれぞれの町に強みがあること。それに加えて、つくばエクスプレスが開通したことにより、一気に交通インフラが整い人口増加が加速しました。

高島市にはこれと同じような状況を作り出すことが可能だと考えています。魅力が多い高島市に、利便性の高い交通インフラが整えば人口が増加をしていくという未来を想像することは難しくありません。高島市はそれだけ大きな可能性を秘めています。



高島の
未来の
一歩先へ

自己
紹介

高島市の
可能性

高島市の
危機感

交通
インフラの
発展

対話を
行つて
きました

高島市の
課題

開かれた
市政

稼げる
まちへ

高島市の危機感

高島の
未来の
一歩先へ

自己
紹介

高島市の
可能性

高島市の
危機感

交通
インフラの
発展

対話を
行つて
きました

高島市の
課題

開かれた
市政

稼げる
まちへ



高島市における最大の危機感が高島の未来を諦めている人が多いということです。

「これから人口は減り続ける」
「交通インフラは不安定」
「高齢化率はすでに滋賀県でトップ」
「若い人はどんどん外に出ていく」
「たくさんの課題が山積している」

このように高島の未来に対して、ネガティブなイメージを持つ人が多ければ未来への意思決定は自然と後ろ向きな決断になってしまいます。そんな閉塞感のなかにいれば、自分たちの意思決定によって暗い未来を確定させていることになりかねません。これまでにデータが示してきた暗い未来は、あくまで過去の延長線上を進んだ場合に考えられるひとつの未来予測でしかありません。未来に向け、過去に行ってこなかった挑戦や新たな一手を打ったその先には、また違った未来が訪れます。

私たちは自らの意思によって、「こんな町に住みたい。そのためにはこれからこんなことをすればその未来は実現できるかもしれない。」この思いによって挑戦を続けていけば一歩ずつでも望む未来に近づけるはずです。

私たちの最大の危機は未来を諦めること。

このことを念頭に置き、未来への挑戦をやめないことをここに誓います。

高島市の人口推移 2000年～

高島の
未来の
一歩先へ

自己
紹介

高島市の
可能性

高島市の
危機感

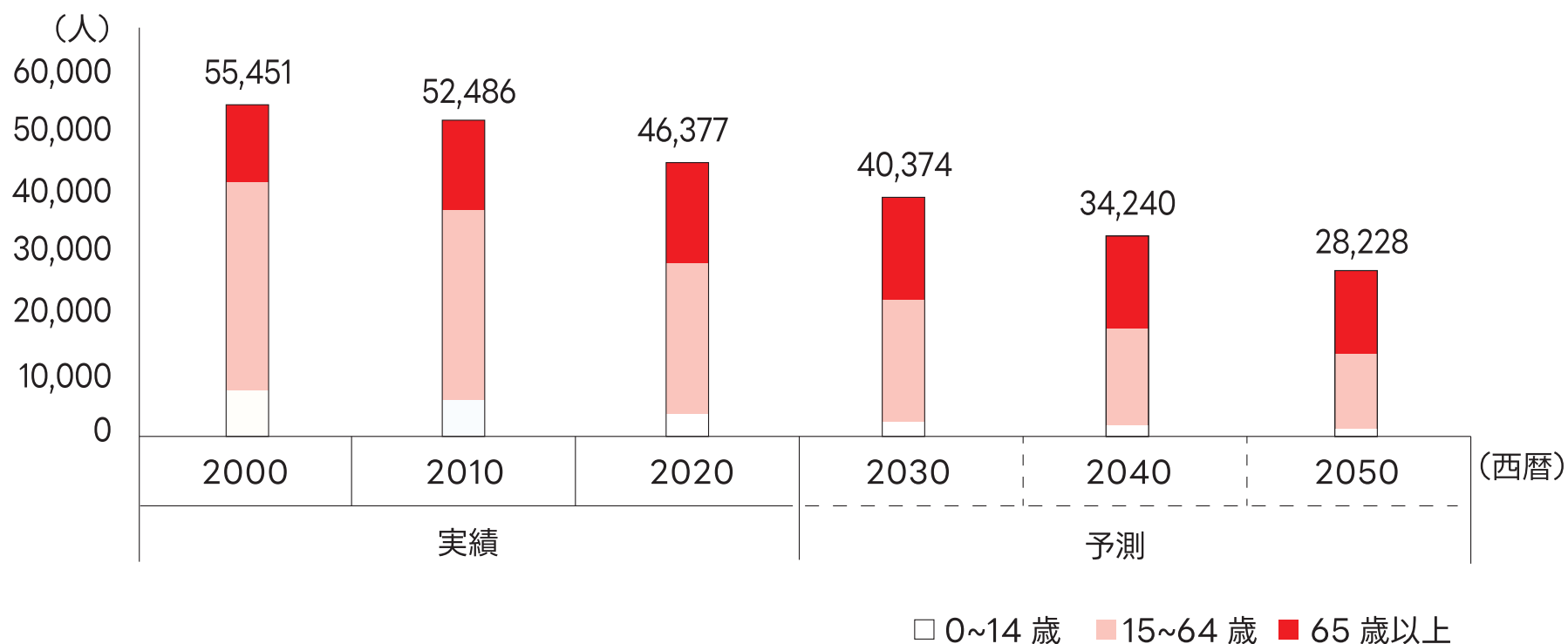
交通
インフラの
発展

対話を
行つて
きました

高島市の
課題

開かれた
市政

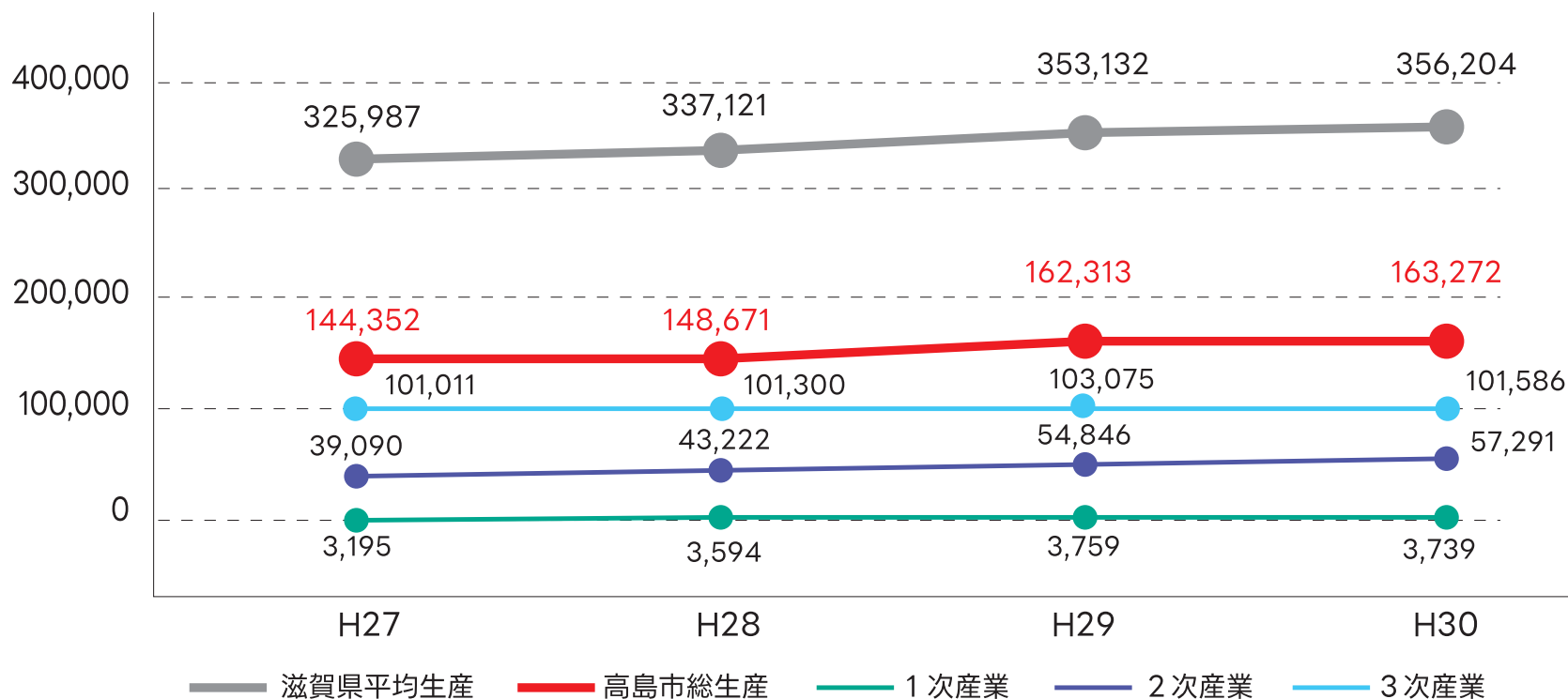
稼げる
まちへ



このグラフは総務省国勢調査および国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口、総務省住民基本台帳に基づく人口、人口動態および世帯数を元にしたグラフを10年おきに編集したものです

高島市の総生産と県内総生産の比較 2015年～

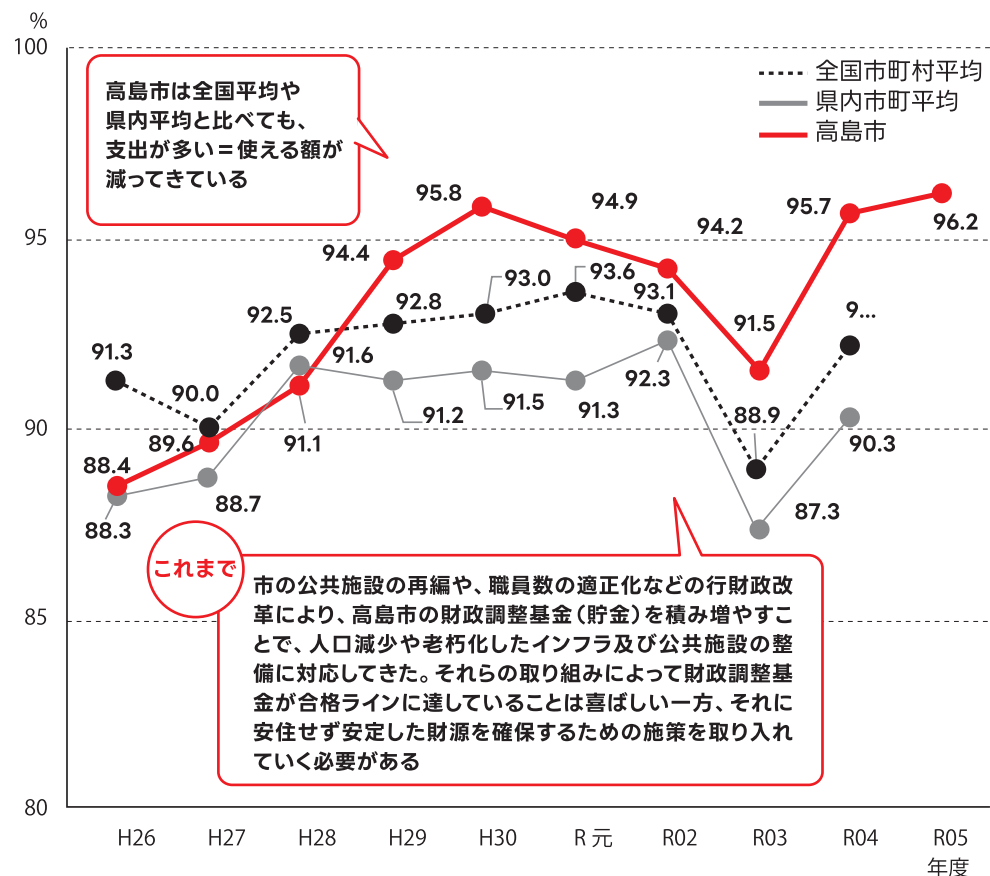
このグラフは、滋賀県全体の総生産と高島市を比較したものです。「総生産」というのは、県や市の中でモノやサービスが作られた量をお金に換算した合計額で、私たちが働いたり、モノを作ったり、サービスを提供した結果として生まれた「お金の動きの合計」を指します。



第2次高島市総合計画後期基本計画（<https://www.city.takashima.lg.jp/material/files/group/11/kousou.pdf>）を元に作成

高島市の経常収支の推移と比較

経常収支とは、人件費、公債費といった義務的に支出せざるを得ない経常的経費に、地方税、地方交付税といった経常的に収入される一般財源がどの程度充てられているかを見るための比率です。数字が高いほど、「使わなきゃいけないお金が多い」ということになり、自由に使えるお金が少なくなります。逆に、数字が低いと「自由に使えるお金が多い」状態です。



今後

支出を減らせる部分が限定的になるため、未来投資を行うためには財源の確保が課題



提案

市政を経営する観点から、稼ぐ市政への転換を目指す

- ✓ 地元企業との連携により、ふるさと納税の額を6億から20億へ増やす
- ✓ 企業誘致や産業促進により経済の活性化に繋げ、固定資産税などの市税収入を増やす
- ✓ 稼いだ収入をインフラ整備や教育など積極的な未来投資に充てる

その効果により、人口の流入・企業の進出を促進し、まちの未来を変える

左のグラフは第3期 高島市行財政改革計画（案）内の経常収支比率の推移
(<https://www.city.takashima.lg.jp/material/files/group/1/R6-4keikakuan.pdf>) を元に作成しました

交通インフラの発展① 湖西線

JRの運転規制値に基づき、湖西線では風速が20m以上の場合に徐行、25m以上の場合に運転見合わせの措置が取られています。さらに、人工知能（AI）を活用した局地的な強風予測システムが導入されており、計画運休を事前に知らせる仕組みも進められています。今後の強風対策については、JRをはじめ、高島市、大津市、滋賀県、さらには国との連携が重要と考え、約100億円規模の事業を想定し、防風壁の建設を進めることで、台風を除いた強風による運行停止の削減が期待されています。この取り組みにより、運行停止を約8割減少させることが期待されます。

強化プラスチック製で
高さが約2mの防風壁は
風速30mの風が風速25m
に抑えられる。

60%
遮蔽

防風壁は強風対策と列車運行の安定性を両立する効果的な手段として採用され、風の巻き返しを防ぎ、環境やコスト面にも配慮されています。他府県では3m、3.5mの防風壁が採用される区間もあり、高島市でもその高さでの検証が必要ではないでしょうか。

防風壁のある区間で
強風規制値を緩和した結果、
運転見合わせ時間の
累計の減少率（和邇－志賀）

67%
減少

※従来基準比

京都新聞 2019年5月23日付け記事を参考にグラフを作成

設置区間

運行停止の目安は
風速25～30m

未設置区間

風速20m以上で
徐行、25m以上で
運転見合わせ

設置区間

比良では過去に
風速35～37mを
観測したことも

塩津

マキノ

近江中庄

近江今津

新旭

安曇川

近江高島

北小松

近江舞子

比良

志賀

和邇

← 山側

琵琶湖側 →

change!

50年ぶりの
駅前再開発

《観光客が降りたくなる》駅前整備を行い、
1時間あたり最低2本以上の運行を実現

change!

特急通勤手当の
新設で利用促進

サンダーバードの1時間あたり1本運行を
目指す

交通インフラの発展② 道路

慢性的渋滞エリアへの緩和・安全走行、災害対策を兼ねた道路整備

R161白鬚神社付近では、抜け道がないことによる慢性的な渋滞が発生しており、近年では正面衝突などの重大事故が増加しています。この状況は、鵜川地区の住民や通勤・通学で日常的に利用する人々にとって大きな課題となっています。より安全でスムーズな交通を実現するためには、山側バイパスルートで現在の2車線から4車線に拡幅することが現実的な選択肢と考えられます。また、財源確保の観点から、自衛隊基地との連携を深め、災害時の救助活動に必要な支援物資の保管倉庫など関連施設の誘致を検討することで、防衛予算（国土強靱化予算）を活用した道路整備の実現を視野に入れることが有効と考えられます。



change!

高島区間片側2車線化による渋滞緩和

片側2車線化、中央分離帯の整備により、高島市区間を70kmでの走行が可能になる自動車専用道路を整備。大阪・京都から北陸へのアクセスが向上し、高島観光時の渋滞緩和が見込め、更なる観光促進に繋げる。

change!

美浜・敦賀トンネル建設で交通アクセスの向上

福井県と滋賀県を結ぶ新たな交通軸が形成され、災害時の代替ルートとしての機能強化や北陸経済圏との連携を加速が期待されます。

高島の
未来の
一歩先へ

自己
紹介

高島の
可能性

高島の
危機感

交通
インフラの
発展

対話を
行つて
きました

高島の
課題

開かれた
市政

稼げる
まちへ

交通インフラの発展③ 新幹線

湖西線の将来的な新幹線開通

湖西線は、将来的にバイパス線としての高速化を想定し、高架路線として整備されている路線です。防風壁の整備によって風対策の成果が実証されれば、さらに実現可能性の高い選択肢となり得ると考えられます。また、「ミニ新幹線方式」を採用する場合、既存の路線を拡幅する工事に対応できるため、工期の短縮やコスト削減といったメリットも見込まれます。このような取り組みを進めるには、JRをはじめ、近隣自治体、滋賀県、福井県、そして国との連携が欠かせません。湖西線ルートがもたらす可能性について、関係機関と議論を深めていくことが重要です。



新提案 /
近江今津分岐ルート

舞鶴 - 小浜 - 今津 - 山科
敦賀 - 今津 - 山科

point

ミニ新幹線で叶う延伸ルート

舞鶴→小浜→近江今津間を車両が短く小回りがきくミニ新幹線で結ぶ。

point

近江今津駅を交通の要衝として活かす

近江今津駅でドッキングして、敦賀へ繋がる北陸ルート、京都へ繋がる東海道接続ルートを整備。また、特急「はるか」の山科駅延伸事業により、2025年度に山科駅改良工事着手、2029年度供用開始を予定されています。山科駅が京の東の玄関口として利用され、湖西線にミニ新幹線が開通すれば滋賀県や北陸地方とのアクセス改善、主要駅までの乗り換えの負担軽減、関西国際空港へのアクセス強化などによって観光産業の発展などの経済効果が期待されます。

《私たちの声が政治に届く》を実感していただくための 対話集会を行ってきました

私自身の過去の経験により、一方的なアイディアによる政策をご提示するよりも、より多くの対話を通じて市民の皆様の声を反映し、より磨きをかけた政策を提案したい。そういった思いから、市内各地での対話集会を開催してまいりました。次ページからその政策についてご説明いたします。



ご参加ありがとうございます

高島の
未来の
一歩先へ

自己
紹介

高島市の
可能性

高島市の
危機感

交通
インフラの
発展

対話会を
行つて
きました

高島市の
課題

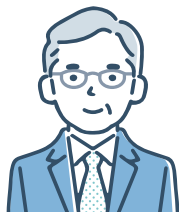
開かれた
市政

稼げる
まちへ

声 -先輩世代-



運転免許返納後の生活が不安



退職後の生きがいや 活躍の場が欲しい



物価高騰の影響もあり、年金だけで暮らせるか不安

政策



先輩世代編

交通手段の確保

- ✓ 集落単位での自動運転によるカーシェアリング実現への挑戦
- ✓ 路線バスのルートをスーパーや病院など必要な生活動線へのアクセスを優先し再設定
- ✓ 乗合タクシーをデマンドコントロールにより効率的に配備
- ✓ 介護タクシーを特例で認める条例の整備

人生100年計画！健康寿命を育む支援

- ✓ 定年退職後の新規創業や市民活動の立ち上げを応援
- ✓ まちづくり会社や集落単位での小水力発電などのエネルギー関連投資に誰もが参加できる仕組みを整備し、これにより定期的な配当を得られる新たな収入源を創出
- ✓ 独居の高齢者の方を孤立させない、市民の交流の場作りの促進
- ✓ 企業や家庭から出るフードロスを生計困窮世帯に届けるフードバンク活動を支援し、もしもの際のセーフティーネットを整備



高島の
未来の
一歩先へ

自己
紹介

高島の
可能性

高島の
危機感

交通
インフラの
発展

対話を
行つて
きました

高島の
課題

開かれた
市政

稼げる
まちへ

声 - 現役世代 -



**スキマ時間に働きたいけれど
子育てをしながらだと働ける環境が限られる**



**学童保育の定員オーバーや学校の統廃合など
子育て環境に安心できない**



**通勤や子供の通学の際に湖西線が止まると
送り迎えの負担が大きい**

政策



現役世代編

スキマ時間に働きたい方が特技を生かせる仕事のマッチング

子育て中の方や、さまざまな事情でフルタイムで働けない方が得意を生かせる仕事に出会うことができる支援を行います。そして、「社会の役に立ちたい」「働きたい」と考える方と、手伝って欲しい事業者とのマッチングを活性化させます。

育むひとたちを支援

子ども予算を増加させ、保育教育関連人材の増員、特色ある小さな学校を支援することで高島独自の豊かな教育環境を整備します。

不便が当たり前とまらない インフラ整備で、暮らしを支援

湖西線の風対策が実現するまでの間、市独自の代替えバスの運行により通勤通学の不安を解消します。



高島の
未来の
一歩先へ

自己
紹介

高島の
可能性

高島の
危機感

交通
インフラの
発展

対話を
行つて
きました

高島の
課題

開かれた
市政

稼げる
まちへ

声 - 未来世代 -



**AIの普及により 未来の仕事が大きく変わるそうです
将来の職業選択が不安です**



**都会にはあるのに田舎にはない習い事が多く
やりたいことがあってもできないことがあります**



**若者人口が少なく意見が反映されにくいと聞きます
若者の声が届くにはどうすれば良いですか**

政策



未来世代編

より良質な教育をするための支援

教員の働き方改革により、教師の負担を軽減し、一人一人の主体性に向き合える環境を作ります。その結果、自分のやりたいことを深く探求できる学校教育の環境を整えます。

子どもたちが夢を育める環境に

地域の多様な才能を持った大人たちに、学校教育現場で活躍できる環境を用意します。子どもたちにとって、たくさんの面白い大人に出会える機会を生み出します。

学びと体験の格差を減らす教育クーポン配布

家庭の経済状況により好きな習い事を選べない子どもを増やさないために月5,000円の教育クーポンを配布します。

生きる力を応援

まずは「自分たちで決める」という民主主義教育を大切にし、自らの未来は自らの手で切り開けると考えられる教育を実現します。各高校に自由に使える100万円の生徒会予算を配り、学業生活における課題解決に向けたアクティブラーニング（能動的学修）支援を行います。



高島の
未来の
一歩先へ

自己
紹介

高島の
可能性

高島の
危機感

交通
インフラの
発展

対話会を
行つて
きました

高島の
課題

開かれた
市政

稼げる
まちへ

イチゴ問題について

背景

- ・地域活性化を目的に、イチゴ栽培施設の建設計画が進められていた。
- ・市外の事業者が総事業費約16億円のうち、国から7億5千万円の補助金を受け取る予定だった。
- ・事業者の要請により、高島市は国の補助金交付前に約3億7千万円を立て替えて支給。
- ・工事が予定通りに進まず、2023年3月の期限を過ぎても現場はほとんど更地のまま。
- ・2023年4月、国が補助金交付を取り消し、事業は頓挫。
- ・高島市は事業者に補助金返還を求めたが、期限を過ぎても返還されなかった。
- ・2023年9月、高島市は事業者を提訴し、補助金の全額回収に向けて法的手続きを開始。

現在

- ・返還が実現するかどうかは不透明な状況が続いている。
- ・訴訟が継続中で、補助金回収の見通しは立っていない。

いちご問題については、迅速かつ適切に対応すべき重要な課題であると認識されています。まず、事実関係を丁寧に再調査し、市議会での意思決定を尊重しながら、受託業者への対応については適切な措置を講じることが求められます。その過程において、必要に応じて厳正な法的対応も検討されるべきです。また、再発防止に向けて稟議規定や意思決定プロセスの見直しを進め、透明性と信頼性の高い仕組みを構築することが重要です。行政としては、結果責任を重く受け止め、市民に対して誠意をもって問題の収束を目指す姿勢が求められます。さらに、市の財源である補助金の適正な運用は非常に重要です。不適切な支出が判明した場合には、補助金の返還を含む厳格な対応を行うべきであり、透明性のある運営を通じて市民の信頼を取り戻すことが望まれます。

再調査 > 厳正な法的対応を検討 > 稟議規定見直し > 補助金返還請求 > より透明性を持って問題の収束と再発防止を

ごみ処理施設について

高島市では、老朽化したごみ処理施設の代替として新たな施設建設が進められています。住民との合意形成という重要な課題に直面しています。この課題は、地域全体で「ごみ行政」について改めて考える貴重な機会でもあると捉えられます。

たとえば、焼却ごみの削減、生ごみの堆肥化、バイオマスエネルギーの活用といった施策を通じて、ごみとどう向き合うべきかを市民とともに考え、持続可能な取り組みを推進することが重要です。

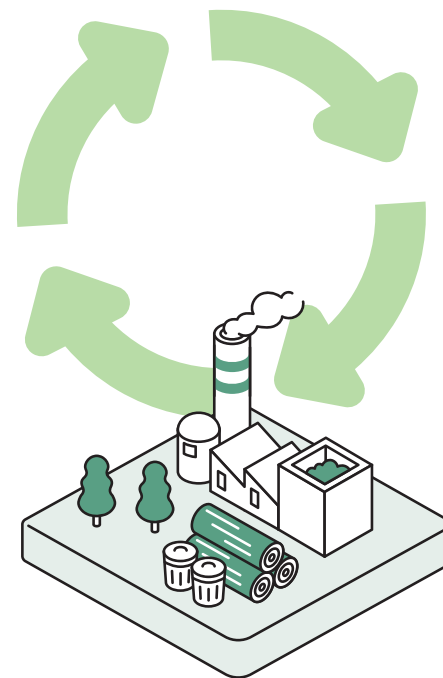
また、議論の透明性を確保し、進捗状況を市民に分かりやすく伝える姿勢が求められます。

新施設の建設費は、国の補助による1/2の負担と、地方交付税に反映される起債*に

よって賄われる予定です。このような大規模な投資には、行政が高い責任感を持ち、慎重かつ効率的な運用が必要とされます。また、受け入れ地域である泰山寺及び周辺地区においても、地域活性化に繋がる施策を住民とともに考え、実現するための対話が大切です。

さらに、施設の運営においては、リサイクルやエネルギー活用の工夫を進め、可能な限り収支の改善を目指すべきです。将来的には近隣自治体との連携を強化し、ごみ処理の広域化を図ることや、焼却エネルギーを活用した電力や熱の地域供給を実現するなど、より広範な地域社会への貢献を目指すべきだと考えます。

※起債(きさい)…起債(地方債・市債)とは、主に市が道路や公共施設など将来にわたって長く利用するハードの整備を行うために必要な資金を国や金融機関など外部から調達するいわゆる借入金のこと。



高島市の
未来の
一歩先へ

自己紹介

高島市の
可能性

高島市の
危機感

交通インフラの
発展

対話会を
行ってきた

高島市の
課題

開かれた
市政

稼げる
まちへ

開かれた市政

今、行政の情報を市民の皆さまにわかりやすく伝える市政運営が重要視されています。多くの問題がコミュニケーションの課題に起因することが多く、正確な情報が共有されない、質問や意見がうまく伝わらず、コミュニケーションミスによる信頼関係の損失を招きかねません。

その解決策として、行政は財政状況を市民の皆さまにわかりやすく伝える努力を継続する必要があります。例えば、年に一度の財政報告会を通じて現状を共有する取り組みや、定期的な市政報告会、さらには対話集会などの機会を設けることが求められるでしょう。こうした取り組みによって、市民の声が行政に届いているという実感を市民の皆さまが得られるようになることが大切です。

また、行政担当者が積極的に市内を回り、市民との対話の場を設けることにより、政治や行政がより身近に感じられる環境づくりが望まれます。このような「開かれた市政」を目指すことで、市民と行政の信頼関係を深めることが可能になります。

政治は市民のものであるべきです。開かれた市政を通じて、政治への信頼を取り戻すことが私たちの共通の目標であると考えます。



リーダーとして

リーダーの役割とは方針を決定しその結果責任を取ることだと考えています。組織が目指す方向が定まっていないと、全てのことをリーダーに聞かなければ組織が動きません。困難に挑んだ際、もしも失敗が起きても矢面に立ち、挑戦を認めてくれるリーダーの存在がなければ、次の挑戦に向き合えません。

リーダーを船長に例えるとその役割とは目的地を決め、航海士と共に航路を決めて船員のモチベーションを高め、常に困難の矢面に立ってコミュニケーションを図り、新人を育て、仲間が主体的に働ける環境を創り上げることです。

私はリーダーの責任に向き合ってきた19年間の中でたくさんの失敗を重ね、その都度成長したいと心から願い、「少しでも良きリーダーでありたい」と走り続けてきました。

まだまだ完璧な存在には程遠いですが、大きな責任と向き合う日々の中で、市民の皆さまや、共に働く仲間育てて頂きながら、高島の未来を切り拓ける真のリーダーを目指して、自己研鑽を続けて参ります。



コミュニケーション能力と対話の姿勢
政策理解と柔軟な課題解決能力
倫理観と地域への愛着



高島の
未来の
一歩先へ

自己
紹介

高島市の
可能性

高島市の
危機感

交通
インフラの
発展

対話会を
行つて
きました

高島市の
課題

開かれた
市政

稼げる
まちへ

民間視点による市政運営で、 稼げるまちへ。

都市部への人口集中が進み、地方創生の必要性が叫ばれるこの時代において、それぞれの自治体の努力が地域の未来を左右すると考えています。

地域が一步先の明るい未来を実現するためには、民間の活力を取り入れた市政運営が必要であり、市政を経営的視点で捉える取り組みが求められています。日本全体で人口減少が進む中、高島市も例外ではありません。しかし、私たちの努力次第でその未来を少しでも変えることができるのではないのでしょうか。

現状は、高島市は滋賀県内で最も早いペースで人口減少が進んでいますが、少なくともそのペースを緩め、更には人口増加に転じる未来を目指すことは可能だと信じています。

これだけ自然豊かで、かつ都市部にも近いという高島市の魅力を考えると、この街に住みたいと感じる人を増やすことができるはずです。重要なのは「できない理由」を探すのではなく、「できる方法」を考える姿勢です。

求められるのは、前向きで積極的な市政運営を通じて地域の未来を切り開いていくリーダーシップです。そのような市政が実現されることで、高島市の未来を一步ずつ前進させることが可能になると考えます。



民間視点による市政運営で、稼げるまちへ。①



市民と行政の関係

市民はリーダーを選べる株主であり、行政サービスを受けるお客様でもある。そして、ともにまちを作る主体者でもある。
これからの時代の新しい行政と市民の関係を模索し続けます。

民間視点の市政運営による財源確保

- ✓ ふるさと納税の強化による未来投資財源の確保
- ✓ 地域産業の発展による高島GDPの向上と所得向上の実現
- ✓ 人口増加、企業誘致による持続的な未来投資財源の確保

通過交通のインフラ整備・脱"陸の孤島"へ

別ページ参照(14p,15p,16p)



高島の
未来の
一歩先へ

自己紹介

高島市の
可能性

高島市の
危機感

交通
インフラの
発展

対話を
行つて
きました

高島市の
課題

開かれた
市政

稼げる
まちへ



民間視点による市政運営で、稼げるまちへ。その②

目的交通のインフラ整備 "寄りたくなる高島へ"

- ✓ 藤樹の里エリアの再開発
- ✓ 近江今津駅前再開発
- ✓ メタセコイア並木周辺の道路整備

転入増加、人材不足解決に向けて "相手の視点に立てる発想の転換を"

- ✓ 市役所にマーケティング課の創設
- ✓ 高島版まちの人事部の創設による採用支援
- ✓ 観光から移住へと繋がる移住相談窓口の強化
- ✓ 円滑な地域コミュニティの醸成を支える移住者に向けた定住支援
- ✓ 通勤、通学における公共交通機関の利用を促進する支援策の実施





一次産業の発展 "陸地面積NO.1の底力を"

- ✓ 高島の農業未来ビジョン策定に向けた新しい座組を検討
- ✓ 農業の大規模化、省人化支援
- ✓ 中山間地域の農業 × ○○ビジネスへの参入事業者を支援
- ✓ 猟友会と連携した獣害対策チームの編成
- ✓ ニホンザルの個体数管理の強化
- ✓ 漁港の民間活用を推進・林業、畜産農家と連携したバイオマス発電への挑戦



官民連携の強化 "混ざり合うことで成長を"

- ✓ 民間企業との人材交流を推進
- ✓ 公務員と地域貢献事業との兼業を推進
- ✓ 持続可能なビジネスを通じて地域課題の解決を目指す"まちづくり会社"の新設支援
- ✓ ネイチャーツーリズム需要を取り込める観光事業者への支援



高島ブランドの強化 "勝負できる力を"

- ✓ 高島の水文化を守る暮らしの提唱
- ✓ 産官学連携により、データサイエンスを活用した地域環境の見える化を推進
- ✓ 特に、環境DNA技術を用いた高島の水研究を積極推進
- ✓ 高島産品のブランド認証制度の推進



高島の未来を一步先へ



01. 交通インフラへの投資



02. 地域産業の活性化



03. 教育・福祉の充実

みんなの声



あなたの声を北川わたるさんに届けよう！

北川わたるは、「対話」を掲げて活動を進めています。お住まいの集会所へまいりますので気軽にお声がけください。



LINE公式アカウント

お友達登録後に、メッセージを送る場合は「トーク」ボタンを押してください



本冊子へのご意見・ご感想がありましたら、ぜひお寄せください。

発行元 / **高島の未来**

〒520-1621 滋賀県高島市今津町今津 1677-64

TEL / FAX : 050-8885-9367

メール : info@takashimanomirai.com